

浜松市楽器博物館を活用した職員研修の実施について

今年度の新規採用職員を対象とした研修において、国内唯一の公立楽器博物館と連携してオリジナルの研修プログラムを作成し、新たな取り組みとして実施いたします。

記

1 目的

- ・ひとつの楽器を多人数で力を合わせて練習・演奏する過程で、協調性やチームワーク、コミュニケーション能力の向上を図る。
- ・国内唯一の公立楽器博物館を活用し「音楽の都・浜松」ならではの研修を実施することで、浜松市が持っている文化資源の価値や魅力を職員一人ひとりが認識し、文化政策への理解を深める。
- ・本市が覚書を締結しているインドネシア・バンドン市とのつながりを踏まえ、インドネシアの伝統的な民族楽器の演奏体験を通じて、インドネシアの文化への理解を深める。併せて、本市の国際交流や多文化共生の取り組みへの理解促進を図る。

2 実施日時

令和 7 年 10 月 8 日(水) 13 時 15 分～14 時

3 開催場所

浜松市楽器博物館地下 1 階天空ホール周辺 (浜松市中央区中央三丁目 9 番 1 号)

4 受講対象者

令和 7 年度新規採用職員

5 実施内容

新規採用職員を 25 人程度のグループに分け、インドネシアの伝統的な民族楽器であるアンクルンを用いた演奏体験を行う。この活動を通じて、限られた時間内で協力し合い、一つの楽曲を完成させることでチームワークの重要性を体感すると共に、受講者同士の意見交換や相互理解を深めることで、多様な意見や個性を認め合うことの大切さを学ぶ。

アンクルンとは…

- ・インドネシアの伝統的な竹製の打楽器。
- ・音程は竹の長さ・太さによって異なり、ハンドベルのように複数人で分担して演奏することができる。

